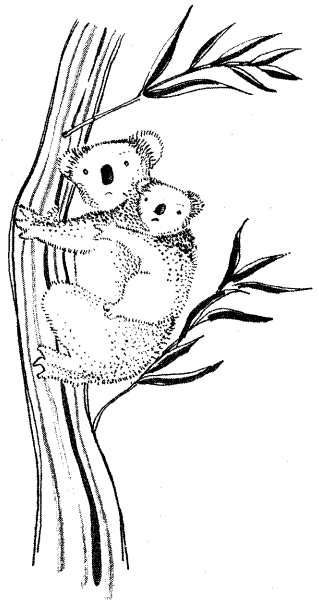


子育てをめぐる 夫婦トーキング

鈴木 洋・鈴木みゆき

① はじめに

私達は、昨年七月下町風情ののこる墨田区に、小児科・内科の鈴木こどもクリニックを開院致しました。院長は、約十年、東京港区の母子愛育会総合母子保健センター愛育病院に勤務し、小児科医療（特に、新生児、小児神経、小児保健）にたずさわってきました。妻は、短大で保育学を教えるかたわら、乳幼児の発達と遊びを研究し、絵本や遊びうたを創作しています。私達の間には小学三年生の長女、五歳の次女、三歳の長男、と三人の子どもがいます。お互いに、子育ての実践——子どもとのふれあい——を通し、又、現実の医療経験とあわせて地域に根ざした小児科医院をめざしています。更に、本来医院は、非



日常的で暗くかた苦しくなりがちな所ではありますが、私達は、地域の母親、子ども双方が
楽しめ、気軽に交流できる場として待合室を子ども文庫（ぞうさん文庫）として解放して
います。病気で受診した子どもたちはもちろんのこと、週一回、元保母である医療事務の
お姉さんが、休診時間を利用して、絵本の読みきかせや人形劇をおこなっています。

開院して約半年、最近の子育てや子どもの問題を夫婦で話しあってみました。

② 乳児（二歳以下）

院長 子どもといっても幅があるからね。年齢的に
区切って話してみよう。

まずは、乳児（二歳以下）の子どもの問題か
ら。

みゆき とにかく情報がすごいということ、それにお
母さん達がかかなりふりまわされているなあと
実感しています。

院長 医療も同じで、病気の知識が先行し、何でも
ないのに、お母さんが不安になっていること
が多い。この傾向は、愛育でもここ墨田区で
も同じだね。

乳児は、保健所からの健診も多いし、来院す
る回数も多いから、実際の病気でなく不安の
ため来るお母さんが目につくんだよね。

みゆき そうね。私が育児相談をしている都内のデ
パートでも、ほとんどが二歳未満のお母さん
達だわ。お母さん達が不安が強いのは、情報
過多もあると思うけど。

院長 そうだね。情報が多すぎてお母さん自身が消
化しきれない感じかな。でも情報を与える側
は無差別、無節操に流している気がするよ
ね。それと、ここ下町は、おじいちゃんおば
あちゃんと同居したり近くにいたりして、祖

父母側からの情報に更にお母さんを混乱させている所があるよ(笑)。おばあちゃん達が育児をしたのは三十年前なんだよ。三十年前と今とは子どもを取り巻く状況が違う。例えば今は、先天性疾患をのぞき、乳児の死亡はめったにないし、赤ちゃんの栄養状態も、生活環境も良いので病気にかけりにくいんだ。又、経済的な余裕(時間も含め)や医療知識の普及もあって早く病院を訪れるため、重症な子どもは少なくなっているんだ。それにひきかえ三十年前はそうでもなかったから、おばあちゃんが不安をあおっている気がする。健康な子どもが肺炎になったからといって死ぬような時代じゃないと僕は思う。

みゆき よくお母さん達がオロオロしていると、核家族化して、側に頼れるおばあちゃんがいらないからだと言う人がいるでしょう？ でも今の話だとだいぶ違ってくるわね。確かに、おば

あちゃん自身が二人前後しか育てていない訳ですものね。

院長 僕は、今のお母さんはよくやっていると思う

し、健診の場でも、自信をもって今後と同じようにやるように言っているんだ。ここだけの話だけど、特に、不安を与える専門家と称する人々や、お母さんの育児を否定的にみる人々は、実際の子育てに関わらなかつた男の医者や、子育ての経験の無い人が多いと思う。要するに育児を頭の中で考えている人達ってことだ。

みゆき あなたは、実際三人の子育てを担ってきた有

能な「子守りのオジチャマ(?)」だものね(笑)。

院長 育児は、数学の問題をとくようなかた苦しい

ものではなく、もっとあまいな——言わゆるファジー——なものなんだよ。

みゆき そうね。私も育児書なるものはずいぶん読ん

だけれど、一般化して書いてあるってことは、個々の幅や深みへの突っこみが足りない気がして気になったわ。あなたが言う「専門家」たちが、どれ程自分の子どもの（もちろん他人の子どもでも）夜泣きや発熱につきあったのかなって思ったりもしたわ。

院長 夜泣きは、たまらないよね。夜、子どもが泣くと誰が受けとめるかが問題だったね（笑）。

お互いの根比べで、目覚めているながら起きたら負け（笑）みたいになじつとしてサ、ついに子どもがあきらめて泣きやんでしまったこともあったっけ。夜泣きは、子どもの成長にともなうできごとで病的なことではなく、聞かされる大人の問題なんだよ。アメリカの育児書に「夜泣きの頃」はないからね。

みゆき 寝室が別だからでしょ。

院長 発熱に関しても、赤ちゃんが三日も熱が続け

ば、医者だって不安になるんだよ。赤ちゃんの最初の熱は、風邪や突発性発疹が大部分なんだ。一応重症の病気の所見はないと診察しても、三日続けば、お母さんも不安になるし、医者も不安になるもんなんだ。四日めに熱が下がって発疹がでてくると手を取りあって喜んだりするんだ（笑）。

みゆき けっこう気が小さいんだ（笑）。

そうそう、育児相談で「あやし方、遊び方を教えてください」というのもふえているわね。昔遊んでいても忘れてるし、成人してから小さい子と遊ぶ経験も少ないものね。

院長 君はそういう情報をよく知っているし、オリ

ジナルのものも作っている（日本コロムビア^{4/21}CD発売・赤ちゃんとの遊びうたです）。ボクなんかまだまだよくわからないから今後もっと勉強していかなきゃと思ってる。

みゆき 幼児をもつお母さんの会に行つて、一緒にう

たったり踊ったりすると実に上手なの。完へきに恥を捨てている（笑）。

これは、最初赤ちゃんをあやすのが恥ずかしくて、赤ちゃんとのやりとりの中で育てられてくるのだと思う。育児って子どもから育てられる部分がたくさんあることを感じるわ。

院長 育児の主役は、お父さんお母さんとその子ども達で、「専門家」は黒子に徹するべきだと思うね。今は「主役」の育児専門家が多すぎる気がするよ。
では次に幼児をめぐる問題について。

③ 幼児（二歳〜就学前）

院長 幼児は、集団生活にかかわるもろもろの病気が多いなあ。まず、幼・保に入って一年めに風邪をよくひく子がいて、親から「家の子は、体が弱いのでしょうか？」と質問される

けど、あたり前のことなんだよね。多くの子どもと知りあうのと同時に多くのウィルスとも知りあうんだからね（笑）。その結果風邪をひく訳です。ハイ。

みゆき 保育の面からみると、確かに親が子どもに手をかけて育てている反面、子どもができることまで親がやってしまっている場面によく出会わ。

院長 診察していると、この位の子は外と内の区別がつかない子もいるよね。親はほめる時はほめ、叱る時はきちんと叱った方が良いと思っただけだね。やはり子どもは他人の私から言われるより親からきちんと注意された方がいいと思うし。

みゆき でも、親が怒る時に「ほら、おじちゃんに叱られますよ」と他人を引きあいになすこと、けっこうあるわヨ（笑）。

院長 我が家は、両親のバランスを上手に利用され

てるよね。叱られると叱ってない方にスツとよりそったりしてサ。

みゆき 三人いるとおもしろいわね。私は鬼ババのよう
に言われたりもするけど、人と物を大切に
する子になってほしいと思っています。

院長 この時期の子どもに幼児教育という言葉を使
うのはなぜ？

みゆき 子どもの生活は遊びなのね。

院長 今、早期知的教育が大はやりで親も情報を仕
入れてきては右往左往している。

いろいろな人がいろいろな勝手なことを言っ
ている状況は、ガンやアレルギーの病気の治
療と同じような気がする。

ようするに、学問的にまだ体系化されていな
い状況の時は、いろいろな人が勝手なことを
無責任に言うんだよね。

みゆき おけいこごとから学習塾まで一週間スケ
ジュールがタレントなみにつまっていて、幼

稚園は気ばらしに行っている子どももいる位
よ。

院長 例えば、大人になって国際的なバイオリニス
トになれたからといって誰もが〇歳から始め
れば必ずそうなるとは限らないのね。

みゆき その子がどういう大人になってほしいのかで
はなく、「小学校に行つて困らないように」
という理由を聞くと驚くわね。

院長 親のビジョンはかまわないけど、ここでも周
囲の「専門家」が誇大広告であおっているの
はよくないね。

みゆき もう一つ、塾がはやるのは、子どもにとって
遊び場が少ないせいでもあると思うの。特に
都会は、交通や様々な事件の影響もあって、
子ども同士が野原や道端で遊べるチャンスが
少ないのよね。

院長 我が家の近くの荒川河川敷には、野球場があ
るけど、日曜日には、大人の男性だけが野球

をしていて、家族は一体何をしているのかわかって思うね。

みゆき 家族そろって遊べる場合は、お金のはる××ランドや△△センターになっちゃうのよね。

院長 公的な機関が、もっと子どもの日常的な遊びを保障していかないとダメだね。選挙権のない子どものことは、政治家は考えないのかな(笑)。

みゆき ここで野球をする男性の話がでたついでに、お父さんの問題を！

④ もっと男性も子育てを

院長 家父長制をそのままひきずっているお父さんもいるけれど、最近では、育児に積極的なお父さんもふえていくんですよ。共働き夫婦がふえているからかもしれないけれど、子どもが病気になるまで交代で子どもをつれてくる家庭も少しだけあるからね。

みゆき 育児の時期にもよるのでは？ 子どもが赤

ちゃんの頃はまだそんなにお父さんも忙しくないけれど、幼児期になるとほとんど家にいなかったり……しない？

院長 今はまだつれてきてくれるだけで良しと思っ
ているんだ。だって発熱で受診しても、「いつから、どの程度の熱か、他にどうい
う症状があるか」聞いても答えられないから
(笑)。ましてやこれまでかかった病気なんて
全く知らない。

みゆき お母さんがお父さんに、子どもと一緒に病院
に行くことを要求できるようになってきたと
も考えられるわね。

院長 今、男女差別の問題を社会でとりあげられ少
しずつ改善されてはきているけれど、基本は
家庭の子育てから始まるんじゃないかな。男
の子は男の子として育てられる背景が変わら
ないかぎり男女差別はなくなるらない。男の子

は父親の姿をみて、役割を学んでいったりするからね。

みゆき

女子短大生に育児意識を聞くと、とても保守的で時代の変化を感じさせない部分と、好きだった主人公が常に、元氣一杯の女の子（例えば長くつ下のピッピやポリアンナ）だったりして、揺れている気がするわ。育てられた環境とこれからつくっていく環境のギャップかなあ。

院長

まあ、全体としては、日本の小児医療のすすんできた道は肯定できると思うよ。マイナス面としては「専門家」志向に走ったり、無駄な検査や脅す育児を展開したりすることもあるけどね。でもこれからは、男女力をあわせて、未来に希望をもてる子育てをしてほしいね。

みゆき

私も、子どもの敵にならない仕事、脅す育児ではなく元気づける育児をめざしていきたい

わ。

院長

初めに不安を与え、「××にならなくてよかったね」と恩きせがましく言ったり、正常範囲内の問題を異常として指導し数年後、はつきりした「正常」な子に、あたかも指導がよかったかのように専門家がいうのは詐欺に等しいね。ポーターラインと称するものほとんどは、もともと正常の子が多いんだからね。

みゆき

子どもに関わる多くの人に、それを認識してほしいわね。

*夫婦共著『はじめての赤ちゃん』（マンガ育児書、

主婦と生活社・一九九〇年三月刊）

（鈴木こどもクリニック院長）

（小田原女子短大講師）